

利根運河大師の解説（運河沿いコース）2023年

| 道順番 | 札番所 | 師守 | 四国霊場 | 由来 |
|-----|-----|-----|--------|--|
| 1 | 82番 | 相川 | 讃岐・根来寺 | |
| 2 | 57番 | 石井 | 伊予・栄福寺 | 割烹新川の石井広吉57歳時の建立。新川は明治25年創業、窪田酒造の向かい側にあった。昭和8年築の現建物は昭和17年、現在地に曳家された。 |
| — | — | — | — | — |
| 3 | 50番 | 相島 | 伊予・繁多寺 | |
| 4 | 45番 | 伊原 | 伊予・岩谷寺 | |
| 5 | 49番 | 中村 | 伊予・浄土寺 | |
| 6 | 1番 | 森田 | 阿波・霊山寺 | 創建者森田慶子、繁男の養母。繁男は大師堂に発願札所と結願札所を安置したが、1番札所は養母とした。 |
| “ | 3番 | 小名木 | 阿波・金泉寺 | |
| “ | 4番 | 萩原 | 阿波・大日寺 | |
| “ | 9番 | 萩原 | 阿波・法輪寺 | |
| “ | 11番 | 古坂 | 阿波・藤井寺 | 流山ましや呉服店の三代目喜左衛門建立。遠方のため大師堂境内に安置された。 |
| “ | 40番 | 鈴木 | 伊予・自在寺 | 野田の人5名の名がある。 |
| “ | 41番 | 秋元 | 伊予・龍光寺 | 元流山市長秋元大吉郎の祖父吉郎が建立。当時41歳で41番を選んだ。 |
| “ | 48番 | 茂木 | 伊予・西林寺 | キッコーマンの茂木一族、七朗治が48歳のとき建てた。台座は94cm、七朗治の一族と従業員ら22名の名が刻まれている。一族の安寧を願ったのでであろう |
| “ | 62番 | 山田 | 伊予・宝寿寺 | 建立者として4名の名がある。 |
| “ | 68番 | 北村 | 讃岐・神恵寺 | 再建 |
| “ | 76番 | 秋元 | 讃岐・金倉寺 | 建立者、下花輪秋元兼吉。兼吉の父吉平は四国霊場、西国霊場を巡拝した熱心な大師の信仰者。父の遺志を弟藤原直吉と共に継ぎ運河大師を建立。 |
| “ | 76番 | | | なぜ76番が複数あるのか？ |
| “ | 76番 | | | |
| “ | 78番 | 山崎 | 讃岐・道場寺 | 中野久木山崎喜之助建立。近隣者と思われる10名の名がある。 |
| “ | 83番 | 秋元 | 讃岐・大宝院 | 加の時計店千疋屋の鈴木啓助が建立。 |
| “ | 84番 | 窪田 | 讃岐・屋島寺 | 建立者、西深井石井さくら。再建。 |
| “ | 86番 | 吉場 | 讃岐・志度寺 | 流山吉場利右衛門建立、再建。 |
| “ | 88番 | 森田 | 讃岐・大窪寺 | 結願所。建立者は森田繁男の妻卷子。繁男は大師堂を発願所と結願所としたが、発願所には母を結願所には妻を配した。 |
| “ | 不明 | | | 製樽組合大師 |
| “ | 不明 | | | |
| “ | 19番 | 矢口 | 阿波・立江寺 | 西深井矢口茂建立。長女が19歳で逝去したので、その霊を慰めるためと言う。茂は現大師前で廻船問屋矢口商店を営んでいた。船着き場は谷口河岸と呼ばれ近くに堂宇があった。現大師堂の敷地は矢口家が提供。 |
| “ | 23番 | 護持会 | 阿波・薬王寺 | 運河を航行していた回漕組合10人と船仲間組合24人が建立。裏面に34人の名がある。根府川石に大師像が線刻されている。 |
| 7 | 18番 | 中村 | 阿波・恩山寺 | 料亭を営んでいた中村龍太郎が店の前に設置した。 |
| 7 | 28番 | 鈴木 | 土佐・大日寺 | 18番の中村と姻戚の鈴木辨吉が18番と同所に建立。現在同じお堂内にある。 |

割烹新川 ブラッセリーしんかわ

明治 25 年創業。かつては窪田酒造の向かいの運河堤防沿いにあった。昭和 8 年建築。昭和 17、利根運河は国に売却され堤防も嵩上げされた。それに伴い現在地に曳家された。本館は市に移管され市の有形文化財に指定されている。現在改築中で、近々観光交流の場と地域の交流の場に生まれ変わる。

不動堂と深井城

戦国時代、西深井には深井城があったとされる。不動堂の近くにはわずかであるが空堀跡がみられることから、この周辺に砦のようなものがあったとされる。小田原北条氏側の小金城高城氏と敵対する関宿城梁田氏との最前戦地帯であった。

明治 6 年 2 月、不動堂で深井学校が開校した。現在の新川小学校に繋がる学校で、流山市内では流山小学校に次いで 2 番目に開校された。新川小学校は今年、開校 150 年となる。

ビリケン像

ビリケンはアメリカ生まれの幸福の神。1908 年、女流美術家フローレンス・プリッツが作成した。頭が尖り吊り上がった目のユーモラスな子どもの像は世界的に有名になった。日本では 1912 年に大坂の通天閣に、1913 年に利根運河河畔に設置された。運河に設置したのは運河会社支配人の森田繁男で、運河大師の設置に関連して西洋の神も作成した。現在の像は 2 代目で、初代の石像は日本に現存するビリケン像ではもっとも古く、市の博物館に保管されている。